2014 12/9
No.1984
毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
―神奈川政経懇話会―

サッカーＪ２で初優勝を果たし、最速でのＪ１昇格を決めた湘南ベルマーレの祝賀パレードや祝賀会が11月24日、JR平塚駅北口の商店街で開かれ、約５千人が駆けつけた。

神奈川新聞社

政経かながわ

2014 12/9 No.1984

contents

視点・点描 3
型破りなスピーチの意味

講演録 4
「世界を揺るがすテロ集団『イスラム国』の恐怖
～米国の軍事介入で混迷の中東・国際情勢」
共同通信社客員論説委員･星槎大学客員教授　佐々木　伸

政　治 8
内閣不支持47％、支持を逆転
比例は自民堅調、トレンド調査

経　済 10
国内景気は“ミニ後退”脱却へ
再増税延期、追加緩和が下支え

企業最前線 12
ガス大手、電力市場に参入
全面自由化にらみ攻勢

くらし2014 14
おばあちゃんジーンズが人気

広告珍談 16
うまい物もろもろ③
肉、喰いたい！

NNAアジア経済リポート 17

会員のページ 18
設立50周年は２年後に（その６）講演会③
会員の動き

会員のページ 19
設立50周年は２年後に（その６）講演会③

事務局だより

◇横浜定例講演会
2014年12月12日（金）
横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズ　4階「清流」
▽講演会　11時～12時30分。演題は「2015年の動向を読む」。講師は神奈川新聞社論説主幹の中嶌　弘孝氏、共同通信社政治部長の鈴木　博之氏、同社経済部長の谷口　誠氏、同社外信部長の儀間　朝浩氏
▽交流会　12時30分～14時

◇横浜定例講演会
2015年1月26日（月）
14時～15時30分
横浜情報文化センター　6階「情文ホール」
講師は元ＮＨＫアナウンサー、フリーアナウンサーの国井雅比古氏
演題は「小さな旅して～人との出会いと発見」

視点点描

型破りなスピーチの意味

サッカーＪ２で記録ずくめの快進撃を展開し、３度目のＪ１昇格を果たした湘南ベルマーレが11月24日、平塚駅前の商店街で初優勝の祝賀パレードと報告会を行った。チームへの期待を表すように、約５千人のファンが訪れた。神奈川新聞も臨時号外を発行した。

湘南の今年の戦いは素晴らしかった。就任３年目の曺貴裁（チョウ・キジェ）監督がシーズン前に「過去最強の湘南をつくろう」とイレブンに呼び掛け、全員攻撃、全員守備の「湘南スタイル」を前面に開幕から飛ばした。

Ｊリーグ新記録となる開幕14連勝で首位を固め、Ｊ２新記録となる残り９試合でのＪ１昇格決定。優勝は６試合を残して決め、最終戦にも勝って勝ち点は大台の１０１。独走Ｖを数字でも証明した。

クラブは１９９４年にＪリーグ初参入。岩本輝雄、中田英寿、呂比須ワグナー、小島伸幸ら日本代表を擁し、リーグ優勝を争ったこともある。95年にはアジア王者に輝き、「湘南の暴れん坊」として人気、実力を兼ね備えていた。

報告会で最後にマイクを握った熱血指揮官は、応援に感謝の言葉を述べ、大きな拍手を受けた。だが、それだけでは終わらなかった。「われわれが（再び）アジアのチャンピオンになるためには、お金も必要。きょう集まった皆さん、浄財をわれわれにください」―。なんと優勝報告スピーチが募金の呼び掛けに変わった。

ストレートな思いの披露に、集まったファンからはさらに大きな拍手が起こった。それはクラブのつらい時期を知っているからだ。

親会社が撤退を決めた99年に初のＪ２降格となり低迷。２０１０、13年にＪ１で戦ったが、ともに１年でＪ２に戻った。それだけに、今度こそ安定してＪ１に定着したい。曺監督は「直接的な言い方でびっくりした人もいただろう。だが監督として、クラブが大きくなるために、こう話すことも大事」と発言の意味を説明した。

クラブは来年１月末日まで「チーム強化募金」を募っている。ここで集めた資金を、強化や環境整備に充てる。パレード会場でも窓口を設けた。Ｊ１での戦いはすでにスタートしている。

（神奈川新聞社運動部長　岡部　伸康）

広告珍談

うまい物もろもろ③

肉、喰いたい！

宮野　力哉

6世紀ころ、仏教が伝来して困ったことが起きた。牛肉が喰えなくなったのである。

牛や馬、ニワトリに犬や猿の肉は不吉なものだ。食べることならずと、天武天皇が発令。それからえんえんと、幕末までダメ。どうしても喰いたいなら、山クジラこと牡丹鍋なるイノシシ、鹿や熊、タヌキにキツネは、クスリとして少しだけならよろしいと。

そんな日本へやってきたアメリカのペリー艦隊は、肉を積み込んでいただろうけど、塩漬けにちがいない。新鮮な牛肉を喰いたい、その渇望は横浜の居留地に住む欧米人たち。ついにたまらなくなって、数人で牛を購入。ある外国人船大工が屠殺、うまいうまいといったかどうかは知らないけれど開港の翌年、すなわち1860（万延元）年春のこと。

食肉販売店をはじめて開業したのは外国商社、横浜市中区に店開き。もちろんお客は外国人だけだろう。日本人が初めて営業したのは67（慶応3）年6月、東京高輪に開いた中川屋嘉兵衛。この連載に記した（2012（平成24）年10月23日の1933号）日本人最初の新聞広告主であり、イラスト入り広告（1867（慶応3）年6月・万国新聞紙）を掲出した先進的な人。おそらく繁盛した、と思えるのはその前後から牛鍋屋、つまりすき焼き屋がぞくぞくと開店したから。

・62（文久2）年、横浜で伊勢熊が「牛鍋屋」を開店

・68（明治元）年、横浜末吉町に「太田縄暖簾」が開店。現存する最古の牛鍋屋

・69（明治2）年、東京芝で堀越藤吉が「御養生牛肉」の看板で開店

・70（明治3）年、東京で3軒の牛鍋屋が開店

・72（明治5）年4月、明治天皇が牛肉を召し上がる

・73（明治6）年、京都に「すき焼御料理・獣肉販売所」なる三島亭が開店（現存する）

・77（明治10）年、東京にすき焼き店（牛鍋屋）558軒。看板はきまって赤い文字

・82（明治15）年、洋画家・木村荘八の父・荘平が「いろは」開店（本誌1934号参照）

・1900（明治33）年、「いろは」は最盛期で22店。従業員は500人

この広告は八王子の牛肉店が、1894（明治27）年に載せた。八王子は織物の産地として知られるが、その頃、よほど景気がよかったのだろう。業界紙《八王子織物新報》に掲出された（「大売出し」のまわりの図柄は、たんなる模様）。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図） 牛肉大売出しの広告・1894（明治27）年10月25日、八王子織物新報掲載